

「酷暑日」時代 保育士2倍配置の保育園が実践する暑さ対策

『子どもを守るために、まず保育士を守る』夏の保育現場

実施期間：2026年7月から9月頃まで

実施場所：風の森が運営する各保育施設

実施内容：施設環境の整備、運用ルールの見直し、人員体制の確保等

社会福祉法人風の森が運営する認可保育園「Picoナーサリ」6園では、今夏も子どもと保育士双方の安全を守るための暑さ対策を実施します。今年新たに、ニューエラジャパン合同会社の協力により、屋外活動を担う保育士へ帽子を導入しました。

子どもの熱中症対策が広く呼びかけられる一方で、その子どもたちを見守る保育士自身の暑さ対策は、十分に注目されてきませんでした。風の森では保育士の安全と心身の余裕を守ることが、子どもの体調変化を見逃さず、安全な保育を続けるために欠かせないと考えています。



酷暑で増す、保育現場の見守り負担

2026年4月、気象庁は最高気温40℃以上の日を「酷暑日」と新たに定義しました。体温調節機能が未発達で、地面からの照り返しも受けやすい子どもたちを守るため、夏の保育現場では水分補給や体調変化の確認など、通常以上に細かな見守りが求められます。

一方、こども家庭庁の委託調査では全国の保育施設の8割が人手不足を感じている実態があります。人員に余裕がなければ、一人ひとりへの目配りや保育士自身の休憩・交代が難しくなり、水遊びなど安全管理に複数の職員を要する活動にも影響します。

酷暑時代の子どもの安全と体験を守るためには、設備だけでなく、保育士が無理なく見守れるルールや人員体制が欠かせません。

※ こども家庭庁令和6年度「保育人材確保にむけた効果的な取り組み手法等に関する調査研究」

設備だけに頼らない、暑さ対策

設備

- ・ミストシャワーの設置
- ・大型日よけの設置
- ・暑さ指数計の活用



運用

- ・暑さ指数に応じた活動判断
- ・屋外業務のローテーション
- ・保育士の帽子着用



人員体制

- ・国基準2倍以上の配置（10年継続）
- ・60分休憩
- ・完全週休2日 / 残業ゼロ



保育士をしっかりと守ることが、子どもを守ることに繋がる



統括 野上美希

昨今の夏は暑さのため、各家庭で子どもを外で十分に遊ばせることが難しくなっています。だからこそ保育園には、安全を守りながら、子どもたちに夏ならではの体験を届ける役割があるのです。それを支えるのが保育士です。保育士が心身に余裕を持ち、子どもの小さな変化に気づける環境を整えることが、子どもの安全と豊かな体験の両方に繋がると考えています。

実際の暑さ対策の現場や、保育士と子どもたちの様子をご取材いただけます。

【お問い合わせ先】社会福祉法人風の森 統括 野上 美希（のがみ みき）
〒168-0082 東京都杉並区久我山 3-37-24 TEL：03-5941-3020
Mail：miki.nogami@kugayama.ed.jp HP：<https://kazenomori.or.jp>

